第 5期 vol.6 (通巻 53号) 平成 26年 7月 1日発行

酒もタバコもコーヒーも、飲まず吸わずに活動中

【月刊発行をめざす、江戸川区議会議員田中けんの政治活動報告書】

月刊 田中けん

区議会「民主・みんな・維新」

特集「ロシア・クリミア・日本について」

☎総合連絡先：03-3248-0888

弁護士による無料法律相談受付中

月刊田中けんに関する
アンケートにご協力ください。

← こちらのQRコードをスキャンすると
アンケートフォームに飛びます。

ご紹介

・写真集、グラビアに興味ある方
(最近、映像関係者と知り合いになりました)
・宝島社から 2冊共著を出版している関係で、
編集者を知っています。何か本を出したいと
思っている方は、気軽にご連絡ください。

お誘い

毎月第 4木曜日 (原則)に鈴木宗男氏が主催する
「東京大地塾」にご一緒しませんか。
入場料無料で、とても勉強になります。

田中けん集会【百語】

7月 13日 (日)11:00～「カラオケ」
参加費 :1,000円 (別途飲食は個人負担)
場所 :歌広場新小岩店 (TEL:03-5607-0180)
JR新小岩駅南口 クッターナビル 7階
※ 会場は禁煙ルームではありませんがメンバーは禁煙です。

7月 27日 (日)13:00～「外国から見た日本」
講師 :武山百合子氏 (元衆議院議員)
参加費 :1,500円 (飲酒希望者は 3,000円)
場所 :田中けん事務所 (詳しくは 4ページ目に！)
※ 食事付きの集会です。
※ 集会参加希望者は、事前連絡をお願いします。

~~8月 3日 (日)11:00～「カラオケ」~~ ※中止
~~参加費 :1,000円 (別途飲食は個人負担)~~
~~場所 :歌広場新小岩店 (TEL:03-5607-0180)~~
~~JR新小岩駅南口 クッターナビル 7階~~
~~※ 会場は禁煙ルームではありませんがメンバーは禁煙です。~~

ご案内

＊墨田川高校ビジネス交流会・同窓会 ＊
日時： 7月 23日 (水)19： 30～ 21： 00
場所：東駒形 3丁目町会会館 (墨田区東駒形 3-10-7)
参加費： 300円
※ 墨田川高校卒業生は、気軽に電話連絡ください。

集会【百語(ひゃくがたり)】報告

「軽作業・食事会・飲み会」

5月 18日 (日) 13:00～ 17:30
参加者 7名

「売れない時代にモノを売る ～売れる広告の作り方」

6月 15日 (日) 13:00～ 18:00
参加者 9名

中小企業診断士の日比野克彦氏 (写真左から 4人目)を講師としてお招きして勉強会をしました。

――― 当日話された内容を簡単に紹介します ―――

売れる広告を作るには、誰をターゲットにするかを明確にする。広告で最も重要なのはキャッチコピー。

調査によると、広告を見た人の 7割～ 8割は、キャッチコピーしか読んでいない。キャッチコピーで反応した場合のみ、本題まで読んでくれる。よってキャッチコピー開発に最大限労力を割くべき。

例えばケーキを売るにあたって「美味しいケーキ」と書いてはいけない。ケーキが美味しいのは当たり前。「美味しい」という表現を使わずに、読者に「美味しい」と思わせる。例えば「こだわりのバターを使ったケーキ」のように、具体的情報を提供することで、自然に「美味しい」と思わせるのがテクニック。

アンケートは、お客さんだけが答えてくれれば良い。答えたくないような人に無理矢理答えさせても意味はない。つまりそれほど数は必要ない。質問項目はたった 5問でいい。そんなに多く質問する必要は無い。

その場合、記述式であることが望ましい。選択式のアンケートが主流ではあるが、その目的は、自分が立てた仮説を証明したいだけであり、相手を納得させるために行っているにすぎない。望ましいアンケートとは言えない。

ロシア・クリミア・日本について

3月27日(木)東京大地塾（鈴木宗男氏の主催）が開かれました。
そこで話された佐藤優氏の発言の主旨を変えずに、情報を補足編集して記載しています。

佐藤優　クリミアには元々、ジンギスカンの末裔達がかつて大きな国を持って住んでいた。その頃はまだロシア人、ウクライナ人という民族意識はなかった。ジンギスカンの末裔達は、ウクライナ住民を拉致しては、奴隷としてペルシャやアラブ諸国に売ったりして生活していた。当時のモンゴル人にとって、人や家畜や農産物を略奪するなどは、ごく普通のことだった。

モンゴル人たちの略奪が激しかったので、クリミアは人が住まない土地になってしまった。そこへ後からコサックと呼ばれる屯田兵（とんでんへい）（土地の開拓と警備を行う兵士）がやって来た。彼らは畑を耕し農業をしながら、武装もしている清教徒だった。1654年コサックが、モスクワ公国と協定を結んで、モスクワ公国の庇護（ひご）下に入った。その後クリミアはロシアに占領された。

1930年代にスターリンが農業集団化を行う。ウクライナで私有地を持つ自作農たちがソビエト政府に反対した。1932年にホロモドールと呼ばれる大飢饉が起きた。飢饉が起きてもなお、外貨獲得の輸出品として小麦は過剰に取り立てられ、農家には充分な小麦が残らなかった。この政策は自作農を敵視するスターリンによる人災、大虐殺だと認識されている。一説には400万人が死亡した。当時の残酷なエピソードとしては、食べる物がなく、人肉を食べていたという。人肉を吊し売りしていた当時の写真が、ペレストロイカ時代に出回った。

1944年第二次世界大戦になってくるとクリミアにナチスが入ってきた。そうなるとクリミアの先住民族が、ナチスと連携して、ロシアからクリミアを引き離そうと画策した。当時30万人のウクライナ人がナチス側についた。ソ連側についたウクライナ人は200万人。ウクライナ人の約1/6はナチス側。

しかし民族の一部がナチスを支持したという事実から、スターリンは、先住民族であるクリミア・タタール人全体に、ナチス協力民族というレッテルを貼った。これを理由に、彼らは中央アジア＝ウズベキスタンへ強制移住させられる。貨車に詰め込まれて、彼らに水や食料はまともに与えられなかった。子どもや妊婦は、ほとんど死んだ。クリミアに残りたいと隠れていた人たちは、見つけ出されて皆殺しにされた。クリミアからクリミア・タタール人を完全に追い出した後、ロシア人が入植してきた。

今回のウクライナにおける政変をロシアでは「ファシストが権力を握った」と報道している。これは昔、ナチスを支持していたウクライナ人が政権を取ったとロシア人が理解しているため。確かに彼らには反ユダヤ的な要素があり危険でもある。

今のウクライナ人が反ロシア感情を持つ理由は3つある。第1にウクライナの大飢饉。第2に第二次世界大戦で同朋が多数犠牲になった。第3にチェルノブイリ原発事故によって、環境的にも財政的にも重荷を背負わされた。1952年スターリン死亡。反ロシア感情が強いウクライナをしっかりロシア側に留め置くための政策が行われた。

1954年クリミア半島はロシアからウクライナに移管された。これはウクライナ出身のフルシチョフ第1書記による独断だった。クリミア周辺には高級リゾートがたくさんある。有名なのはヤルタ。もう一つはソチ。ロシア人は2ヶ月間休んでリゾート生活をする。施設の利権がウクライナの共産党幹部に移ることは、ウクライナの懐柔策（かいじゅうさく）として効果があり、それがロシアのメリットとなった。

1956年にソ連共産党第20回大会にて、フルシチョフがスターリン批判をした。第二次世界大戦中に、チェチェン人、イングーシ人、カルムイキア人に対ナチス協力民族とのレッテルを貼って強制追放したのはスターリンの間違いだった。民族全体が敵と協力するなどありえない。「元の土地に帰して権利を回復させる」と言って、事実そうなった。

しかし、クリミア・タタール人は一切無視された。故にクリミア・タタール人を中央アジアに追放した事実はソ連でなかったことにされている。それでもクリミア・タタール人は、1960年代後半から、果敢にクリミアに戻ってこようとしていた。ソ連政府は彼らを見つけ次第、中央アジアに戻していた。その時になると殺すことはなかった。

結局、クリミア・タタール人問題をしっかりと認めて、クリミアへの帰還を認めたのはゴルバチョフだった。その後、案の定クリミアでは土地の取り合いで民族対立が激化した。だから、同じウクライナ内であってもクリミアだけは別で、ロシア人とウクライナ人は仲良く共闘して、クリミア・タタール人と対立している基本図式になっている。

（3ページへ）

今回のクリミアでの住民投票は、ロシアの軍将校が階級バッチを外して、自警団として介入し、ロシアがクリミアを実効支配する目的で行われた。これは国際法的な基準から逸脱している。よって、ロシアにクリミアを編入するという決定がなされても国際法的な効力は持たないとするG7（フランス・米国・英国・ドイツ・日本・イタリア・カナダの7ヶ国で構成された首脳会議）の主張は当然。

他方、もしクリミアで、軍隊などを排除して、完全に自由な民意の反映をした住民投票をした場合であっても、確実に今回と同じ結果にはなった。クリミアの住民の大多数はロシアへの編入を望んでいる。それはクリミアにとって、過去20数年間のウクライナ支配下にあって、何も良いことがなかったから。今までのウクライナ政府は、EUとロシアを手玉にとり、より多くの支援を得て、自分たちの政権内で富を分けていた。それで腐敗汚職が起こり、政権が変わる。腐敗汚職を一掃するとして誕生した新政権も同じ事をする。それの繰り返しだった。

クリミア人が恐れたのは、今回のキエフの政変で、ウクライナ至上主義者によって、公用語がロシア語からウクライナ語だけになることだった。クリミアではほとんどの人がロシア語を話している。ウクライナ語が公用語になると、公務員は全員ウクライナ語を話す人たちに取って代わられる。役所との間でやり取りする文書が全部ウクライナ語になる。民間企業であっても役所の許認可が必要な場合、ウクライナ語ができる人が会社にいないと仕事にならない。

これはウクライナ語という言語を使って、エリートの入れ替えが行われることを意味している。
ウクライナ国籍を持っていてもロシア語しか話せない人は、事実上職を失う。または降格される。収入が減るという意味で、2級市民になってしまう。

自分たちの生活が不安に貶（おとし）められる可能性が高くなるからこそ、クリミアや東ウクライナでは大きなデモが自然発生的に起きた。別にロシアがデモをそそのかしたわけではない。

では、どうしてロシアはクリミアに国籍不明の軍隊を入れたのか。正規軍ではなく国籍不明軍にしたのは外国に軍隊を入れることに後ろめたさがあったから。更に、正規軍がウクライナ人と対立すると、極東アジアに多数存在するウクライナ人との民族対立など、国内問題の矛盾がより大きくなる懸念（けねん）があった。それでもなお、もしあの時点でロシアが軍事介入していなければ、キエフの武装集団がクリミア議会と政府を占拠して、自治政府の権力を全部キエフ側が握ることになっただろう。そして住民投票などさせなかった。それが目に見えていたから、ロシアは先手を打った。

当初、プーチンは「ロシアがウクライナの領土であるクリミアに介入することはない」と明言していた。それにも関わらず、軍事介入せざるを得なくなったのは、クリミアにいるロシア人の「助けてくれ」という支援要請を無視できなくなったから。もしここで同朋を切り捨てる決断をしていたならば、国内的にプーチン政権がもたなかった。今のロシアは国益にとって死活的に重要なことであるならば、近隣諸国の主権は一定制限されて構わないという強国主義的発想になっている。それと同時にクリミアについて、現状は変えられないと考えている。

その根拠は、第1に歴史的経緯とクリミア住民がロシアの助けを求めているという現実。第2にキエフのウクライナ新政権が、クリミアの現状を変えられる軍事力を持っていない。第3にアメリカがキエフの現政権に対して軍事支援を行うとか軍事顧問を送るなどによって、クリミアの現状を変える意図がない。この3点の理由により、力によって現状を変えても誰もそれを阻止することはできないという帝国主義的発想をしている。

ロシアは表向きウクライナの現政権の正当性を認めていない。しかし、外務大臣同士が会っていることから、ウクライナの現政権は事実上承認されている。ロシアのラブロフ外相は、プーチン大統領承認に基づいて行動している。ロシアとしてはキエフの政権と折り合いをつけるシグナルを送っている。そのシグナルとは、ウクライナは連邦制に回帰しろということ。東ウクライナと南ウクライナに関しては極めて高度な自治政府を作り、そこをキエフの政府が間接統治する。ウクライナとロシアとの間に、緩衝（かんしょう）地帯を作り出すことによって、軟着陸による問題解決を狙っている。これがうまく行くかどうかは、キエフとワシントン（＝アメリカ）がどう考えるかによる。G8から排除されたことを、ロシアは侮辱だと受け止めている。

（4ページへ）

それに反発してロシアは強硬な姿勢を取り、**G8を無視することで、プーチン大統領の支持率が80%以上にあがっている。**これは非常に危険な、ポピュリズム＋ナショナリズムの流れになっている。この流れが強くなると、ロシアは中国に接近する。ロシアが中国に接近すると、理論的には中国が尖閣諸島に上陸してくる可能性は高まるのだが、現実はそう簡単にいかない。もし中国が尖閣に上陸するようなことをすれば、西側諸国は中国に対してエネルギー封鎖を行う。だからと言って、ロシアはエネルギー供給できるインフラ整備を中国のためにはしない。バイカル湖以東にロシア人が620万人しかいない極東ロシアに、中国人が多数入ってくる状況は極力避けたいから。

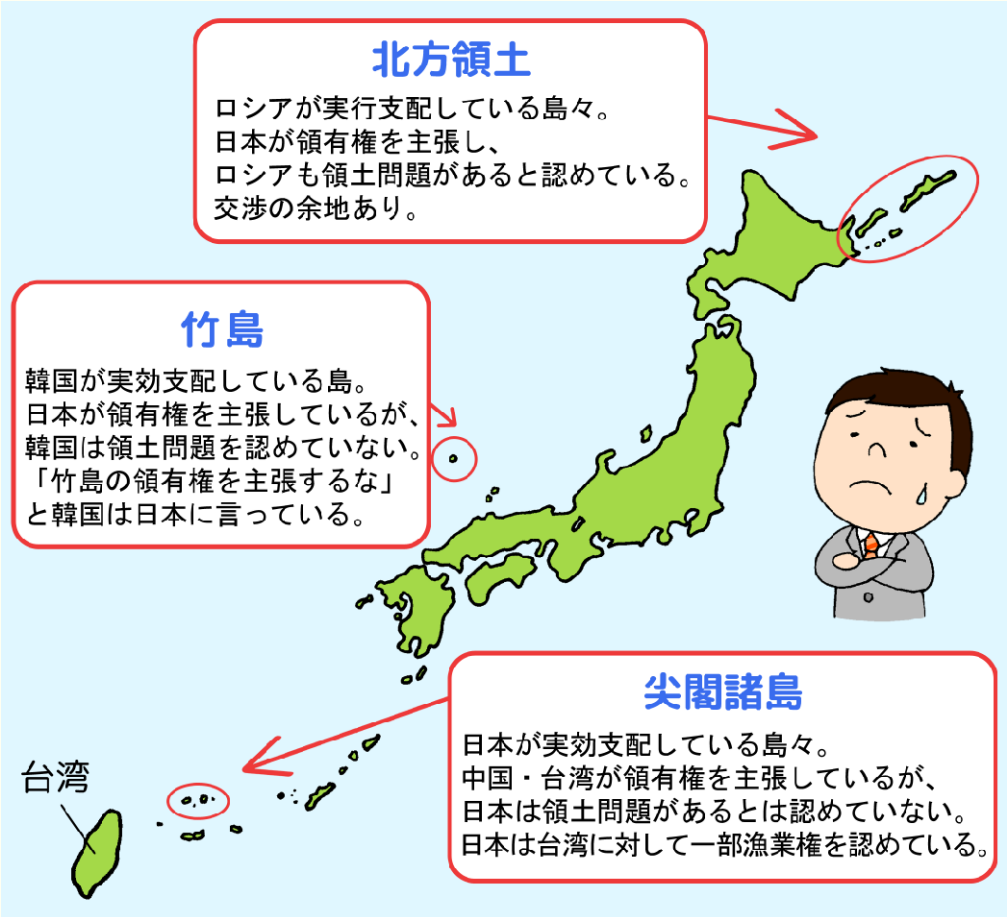
この先考えられるのは、ロシアが中国に接近すると同時にイランにも接近すること。そしてイランの核開発を容認する。イランが核開発をすると西側の経済封鎖を受けて石油が売れなくなる。そうなった場合、イランは中国に石油を売ることになる。石油を中国に運ぶためにはパイプラインを作らなければならない。その時ネックになるのはミャンマーだけ。もし中国がミャンマーを押さえられれば、中国にエネルギーの心配はなくなる。**その時点で、中国は尖閣に上陸する。**

西側が対応を間違えると、モスクワ、北京、テヘランという３カ国による枢軸（すうじく）ができる。こうなると国際社会のルールが全面的変更となり、国連のシステムが事実上崩壊して、力によって物事が解決できる世の中になってしまう。非常に危うい状況。

ウクライナ問題におけるロシアの目的は、クリミアに住むロシア人の権利を保全すること。「領土拡張をしている」と非難している西側諸国の誤解を解き、ロシア側の意図をわかりやすく証明するには、別の領土を手放すのがいい。北方領土を日本に手放す。こうなれば国際社会に対して「ロシアの行動は領土拡張が目的ではない」という強い説得力を持つ。特に日本人のロシア感情を大きく好転させる。

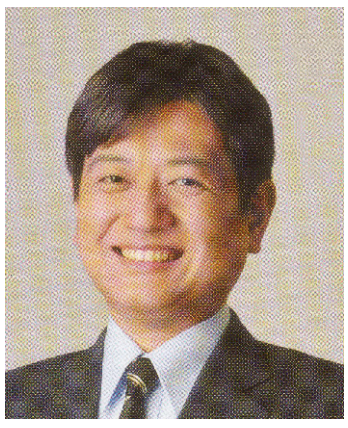
ロシア側から見れば、一旦北方領土を手放したとしても、その後何かあれば、クリミアのように北方四島で住民投票を行って、軍事力を背景に独立、再併合もできる。ロシア側のリスクは少ない。

つまり北方領土解決における最大のチャンスが今ここにある。ただしこれはアメリカとの関係においてどこまで日本ができるかにかかっている。実際そうなった場合、日本は他の西側諸国から「自国の領土のため、国益のためならば、西側共通の価値を投げ捨てる国」だと見られるリスクもある。



ただし今の日本にとって一番重要課題は、中国による尖閣諸島への侵略をどうやって阻止するかだ。ロシアをあえて中国に接近させる必要はない。これはアメリカも理解している。　今、中国が尖閣を侵略してきた場合、中東とウクライナと極東アジアの3ヶ所正面作戦を展開できるだけの力がアメリカには無い。**つまり、中国が尖閣に上陸しても、アメリカは日本を助けてくれない。助けられない。**実際のアメリカは、中東だけでも手一杯の状態。このような事態にでもなれば、TPPは一気に飛んでしまう。

広い小中学校の実現　シンプル＝小さな政府　特定秘密保護法に反対



江戸川区議会議員
田中けん
www.t-ken.jp
電話番号　：03-3248-0888（平日9～18時まで）
自宅事務所：〒132-0021 江戸川区中央4-25-14（敷地内奥、白いプレハブ）

＊ プロフィール ＊
松江三中卒、墨田川高校卒、千葉大学教育学部卒
1995年　江戸川区議選　（2789票・41位）当選
1999年　同選挙　（4282票・16位）当選
2001年　東京都議選　（12394票・8位）落選
2003年　江戸川区議選　（4103票・15位）当選
2007年　同選挙　（3883票・25位）当選
2011年　同選挙　（3280票・41位）当選
著作（共著）“外国人参政権”で日本がなくなる日　宝島社 2010年
100人がしゃべり倒す！「魔法少女まどか☆マギカ」宝島社 2011年

区議会日台親善議員連盟会長・禁煙地方議連代表幹事・ホームヘルパー２級

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています